

会社情報

設立 昭和23年
従業員数 45名
代表者 池田 光司

池田食品 株式会社

私達の美味しい「創作おやつ」で世界が幸せになります様に！

豆菓子やナッツ、ボー口、かりんとう等の「創作おやつ」の製造および販売を手がける。



代表取締役
池田 光司

北海道を活かした美味しさを表現することができました。

明確な目的があるからこそ、内容に適した助成事業が見つかったと思います。今回の事業に取り組むことで、改めて考えを整理する時間がとれたことに感謝します。また担当される行政の方々の情熱にも後押しされました。



試作の様子

お客様のニーズを汲み取り、生活に溶け込むような商品をつくる ～北海道素材を活用したタマゴボー口の開発～

「のれんは、革新からしか生まれぬ」。

豆菓子を中心にカシューナッツやかりんとうなど、地域に愛されるお菓子の製造及び販売を行なう池田食品株式会社。同社の前身・有限会社松屋池田商店は、昭和23年に乾物問屋として札幌市中央区で創業した。翌年製造業に転換し、現在に至るまで北海道のローカル企業としてお客様に寄り添い、たゆまぬ努力を続けてきた。

同社が今回取り組んだのは、北海道素材を活用したタマゴボー口の開発だ。タマゴボー口は中国・香港で、子どものおやつとして特に人気が高い。道産食材を使用し安全性を強調することで、より安心して楽しんでほしいという想いがあった。

原材料として北海道産じゃがいも澱粉を100%使用。アジア圏への輸出を念頭におき、素材の良さを損なわずおいしさを最大限に引き出せるよう試行錯誤を繰り返した。子どもに与えやすいようパッケージはジッパー式にし、賞味期限延長も行った。

全ての商品は届ける相手があってこそ。

現在タマゴボー口はミルク、ほうれん草、かぼちゃの3種類。今後は道産野菜を活用した新たなフレーバーも検討しているそうだ。ヨーロッパへの輸出も視野に入れているが、クッキー・ビスケット文化圏でどのように商品を打ち出していくかが課題だ。

代表の池田さんは、これまで視察や会議のため何十カ所もの国や地域を訪れ、見聞を広めてきた。その話しぶりから、彼の目に映る世界はいつも新鮮な驚きと、知る喜びに溢れていることがわかる。その情熱は社員にもしっかり共有され、新しい挑戦に向けて一人ひとりがアイデアを出しやすい環境がつけられている。

今回の開発の際には、現地のニーズを徹底して調べた。言葉にならないニーズを汲み取るために重要なのは、気付く力だと池田さんは言う。さらに「輸出事業は何よりも先人の信用で成り立っていると思う。私たちもその信用を大切に次世代に繋ぎたい」と続けた。人ありきの革新によって、のれんは守られていく。



北海道産の原料にこだわったタマゴボー口



中国バイヤーがリモートで説明する様子
リモート商談会(一社)札幌物産協会主催商談会にて

【本社・白石本店】
住所：札幌市白石区中央1条3丁目32
TEL 011-811-2211
FAX 011-811-2214
<https://ikeda-c.co.jp>

